

大阪市立南港桜小学校 令和元年度 校長経営戦略支援予算【基本配付・加算配付】
実施報告書
(補足説明資料)

【基本配付】

本校では、令和元年度末の教育アンケートにおいて、「授業はよくわかる」の子ども「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を 85%以上にするや、令和元年度末の教育アンケートにおいて、「自分で考えて、自分から動くことができる」の子ども「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を 85%以上にするを年度目標とし、年度目標に応じた事業効果を図る指標として、

- ① 「学び合い」のスペシャル講師（東京大学の小国教授）を年 4 回招聘した授業研究ならびにみんなでつくる研究体制（一人一授業公開）の充実を図る。
 - ② 教育アンケートにおいて、「学校の授業などで、学級の友達との間で、話し合う活動をよく行っている」の肯定的な回答をする割合を 85%以上にする。
 - ③ 教育アンケートにおいて、「授業はよくわかる」の肯定的な回答をする割合を 85%以上にする。
- ことをそれぞれ設定した。

上記を達成するために、以下の 1 つの取組を行った。

1. 取組内容（1）について

1-1. 取組を実施する必要性

本校では学力向上の柱として、友達同士の学び合いを力点に置いた。個に応じた学びの実現のためにも、一人一人の学力分析や学力指針を明確にするためにも、学び合いの手法を活用する意義を教職員間で共有した。

1-2. 取組を実施することにより期待できる効果

学び合いの実践を積み重ねることで、互いの違いを知り、相互理解へとつながる。学習面の向上のみならず、学級集団としての質も向上する。さらに、教員の子どもを見る目が育つ。

1-3. 具体的な実施内容

① ICT の活用

具体的には、ICT 支援員を招聘して、個別の指導や授業支援を行い、より子ども目線に立った学習場面を生み出す。

② 学び合いの研究実践

東京大学の小国教授を招聘し、学び合いの授業づくりや学校づくりの助言や指導を仰いだ。

1－4．取組に対する達成状況（A～D）及びその評価理由

・取組に対する達成状況：B

・評価理由：

取組内容①においては、定期的なICT支援員の訪問より、授業のヒントや授業改善に役立ち、授業の質を上げるという成果をあげることができた。

また、取組内容②においては、学び合いの基礎基本を学ぶことにより、困ったときに相談し合える学年集団や学校づくりができ、よりチームとしての質を高めることができるという成果をあげることができた。

以上の成果から、B評価とした。

2．総論

2－1．年度目標の達成状況、総評

本校では、上記の取組を実施することにより、

① 「学び合い」のスペシャル講師（東京大学の小国教授）を年③回招聘した授業研究ならびにみんなでつくる研究体制（一人一授業公開）の充実を図ることができた。

② 教育アンケートにおいて、「学校の授業などで、学級の友達との間で、話し合う活動をよく行っている」の肯定的な回答をする割合が96%となった。

③教育アンケートにおいて、「授業はよくわかる」の肯定的な回答をする割合が93%となった。

以上の結果から、年度目標に対する達成状況を「B」評価とした。

これは、学級での話し合いにおける指針が明確となったことや学び合いの目的や意味を全教員で確かめえたこと。さらには、子どもたち同士が互いを認め合え、学級づくりの質を高めることができたことが考えられる。

2－2．学校協議会における意見

特にありませんでした。